

第5章 自由意見の記載内容の分析

5-1 人権施策についての自由記載

問 21 添田町が行う人権施策について、あなたのご意見をお聞かせください。

1 記載状況

年齢層	回答数	記載数	記載率
18～29歳	39人	7人	17.9%
30～39歳	45人	12人	26.7%
40～49歳	54人	9人	16.7%
50～59歳	74人	11人	14.9%
60～69歳	79人	12人	15.2%
70歳以上	59人	14人	23.7%
不明・無回答	23人	3人	13.0%
合計	373人	68人	18.2%

記載者は、373人中68人（18.2%）であり、近隣市町村と比較して低い割合となっている。

年齢層別に記載状況を見ると、「30～39歳」が最も高く、次いで「70歳以上」である。「30～39歳」では、アンケート回答者45人中12人が自由記載を行っており、約4人に1人に相当する。この年齢層においては、人権問題に対して積極的に意思表示を行おうとする傾向が、記載内容からもうかがえる。

2 記載内容

自由記載は、回答内容があらかじめ限定される各設問の回答とは異なり、回答者が自らの意見を自由に記述できるため、より率直な意見や意識を把握しやすいという利点がある。

本調査の目的である「今後の人権施策の参考にする」ことを踏まえ、住民が人権問題や行政が推進している人権施策について、どのような考えを持っているのかを整理するため、記載内容を以下のように分類し、住民の意識傾向を分析する。

なお、寄せられた意見については、調査における自由記述という性格および情報の公開の趣旨を踏まえ、原文のまま記載している（ただし、明らかな誤字脱字については修正している）。

A 人権施策の推進に肯定的な意見

- ・私自身イジメやさべつをうけたことがありますので、きちんと私のような子ども達や人々がふえないように取り組んでいただくと良いと思います。心のキズはずっと残りつづけるため、無くなることを心から願っています。（30～39歳）
- ・子供や20～30代の人達は人権学習を受けている世代なので、人の気持ちを考えたり思いやりがある世代だと思う。どちらかというとなら50代から上の世代の男女になると人権学習が必要なのでは??と思う事は多々あります。（30～39歳）
- ・人間として、社会人として、最も基本的な権利である「人権」がみな等しく守られる家族、社会、国家でない限り、人類の繁栄はあり得ないと思います。（60～69歳）

B 人権施策の推進に否定的な意見

- ・弱い立場の人のふりをして人を優遇しないでほしい。生活保護などの不正受給などきびしく対処してほしい。（50～59歳）

- ・学校で部落差別をむかしの事を現在みたいな教育をするので勘違いし、差別が始まる。(60～69歳)
- ・人権問題に施策は要りますか？人それぞれの心の問題ではないですか？忘れていたものを思い出させることにもつながります。(70歳以上)

C 人権施策の認知に関する意見

- ・添田町に住み始めて、まだ2年も経っていないので、どういった人権施策を行っているのかも知らないで、特に意見はありません。(18～29歳)
- ・若い頃は戦時中で勉強も余り出来ていません。この年になり意見を申し上げることもなくてすみません。ご意見を聞かせてください。(70歳以上)

D その他の意見

- ・自分は高齢者なので、車に乗れなくなった時の乗り物が、ととのっていたら、たすかります。(70歳以上)

3 年齢層別意見の傾向

年齢層	A肯定的意見	B否定的意見	C認知に関する意見	Dその他の意見	記載数
18～29歳	4人	1人	2人	0人	7人
30～39歳	10人	0人	2人	0人	12人
40～49歳	6人	2人	0人	1人	9人
50～59歳	7人	2人	2人	0人	11人
60～69歳	8人	2人	0人	2人	12人
70歳以上	9人	1人	3人	1人	14人
不明・無回答	1人	2人	0人	0人	3人
合計	45人	10人	9人	4人	68人
意見の割合	66.2%	14.7%	13.2%	5.9%	100.0%

現在、推進している添田町の人権施策に対しては、賛成する意見が多く(66.2%)、今後も同様の方向性で取組を進めていくことが望まれる。一方で、自由記載者の13.2%が「人権問題は分からない」と回答しており、人権啓発の在り方については、引き続き工夫が必要である。

年齢層別については、母数が小さいため確定的なことは言えないものの、「30～39歳」では「否定的意見」が12人中0人、「70歳以上」で14人中1人と、非常に少ない点が特徴として挙げられる。

4 特記すべき記載内容

- ・いつも、教育委員会の皆様をはじめとした添田町役場の職員の皆様には大変お世話になっております。本当にありがとうございます。実は、私は性的少数者の当事者です。以前に比べれば、全国の自治体がパートナーシップ制度を導入したり、全国各地でレインボープライドやパレードなどのイベントが開かれ、また当事者団体などによる交流会などが大なり小なり開かれている状況であり、性的少数者に対する理解は広がっていると感じます。(30～39歳)

性的少数者であることをカミングアウトした記述が2件見られ、当事者がカミングアウトを伴う記述ができる環境が整いつつあることを示していると考えられる。今後も、このような環境が後退することがないように、十分に配慮した取組を継続していくことが求められる。

- ・日本は人権が保障されている為、余りに人権に関して叫ばなくて良いと思う。そもそも差別を受けていると言う声を聞いたことも見た事も無い為、本当にそのような事象があるかどうか怪しい。また、外国人労働者に頼るのはおかしいし、外国人を優遇するより日本人を先ず優遇すべきだと思う。在日外国人に関しても、日本が住みづらいならば自分の故郷へ帰る事は何も差別とか人権侵害ではなく普通の事だと思う。(18~29歳)
- ・人権とは日本人に対して尊重されるべきであって、在日や帰化人、外国人に対しては、日本人と同等に扱う必要なし。(40~49歳)

外国人に関する記述は3件、いずれも日本人の人権を優先すべきであるとする意見である。これらは、いわゆる「日本人ファースト」と呼ばれる考え方に基づくものであると考えられる。「ファースト」という考え方は、特定の集団を優先的に位置づけるものであり、その反対側には、相対的に後回しにされてもよい集団が生じる状況を招きかねない側面がある。

人権は、国籍や出自、属性などの違いにかかわらず、すべての人が等しく尊重されるべきものであり、「私ハッピー、あなたハッピー」と表現されるように、相互の人権が尊重される社会の実現を目指すものである。

今後は、こうした人権の基本理念について、住民に分かりやすく伝える啓発の取組を継続していくことが重要である。